

# デンマーク・オーフス市の高齢者通所施設の空間の使われ方の特性について

日本建築学会計画系論文集/ No. 601/ pp. 57-64/ 2006年3月

正会員 西野達也君

デンマーク国オーフス市の高齢者通所施設は、活動プログラムを利用者が個別に選択できるという特徴を持つ。これを対象に各部屋と施設全体の空間特性を明らかにしている。

まず、行動場面を公私活動の別、活動種類の数、集団種類の数を指標として分析し、トレーニング室、活動室、食堂、ホールの各室に特有の活動種類と集団種類の型が存在すること、施設全体としては複数の活動の場が共存することを把握している。

さらに、用途を限定しない部屋利用、隣接室との関係を配慮した扉の開閉、滞留可能な通路空間の形状、天井の低いアルコーブを伴う食堂など、異なる活動の場がつながりをもつ要件を検証している。

オーフス市の通所施設は、ローカルセンターという名称のとおり、高齢者のみを対象とした施設ではない。その意義をふさわしい空間のあり方とともに示した点で、本研究は日本の高齢者施設の計画に対しても多くの示唆を与えるものとなっている。